

ふきのとう

2008
春号
No.022

当院看護師の三浦亜希さんが青年海外協力隊の一員として2年間グアテマラで活動してきました。私たちがなかなか知ることが出来ない国の現状や青年海外協力隊としての活動内容について次のページに掲載しています。他の国の生活状況、医療状況を少しでも知ることができますので、ぜひご覧ください。



青年海外協力隊の活動





青年海外協力隊 としての2年間



5階南病棟 看護師 三浦 亜希さん

『Hola!!? Cómo están?』 みなさん、こんにちは。私は、昨年12月に青年海外協力隊としてグアテマラ共和国での2年間の活動を終え、現在は5階南病棟で看護師として働いています。私が活動していたのは、グアテマラ共和国のケツアルテナンゴ県パレスティナデロスアルトス市というところの保健ポストで、看護師として働いていました。

保健ポストというのは、簡単に言うと診療所のような施設で、そこでグアテマラ人の准看護師2人と一緒に働いていました。



私が派遣された場所は、乳幼児死亡率が50%と高い地域であり、その地域における乳幼児死亡率を低下するために保健啓発活動を行なっていました(乳幼児死亡率:5歳未満の乳幼児の死亡率)。

現在の日本の乳幼児死亡率は2~3%とされているので、私が派遣されていた地域の子供がいかに多く死亡しているかが理解できると思います。

特に私が力を入れて活動していた事は、『乳幼児健診』と『低栄養児指導』です。日本では当然のように行なわれている『乳幼児健診』ですが、私の派遣先では行なわれていませんでした。母親が、自分の子供の身長も体重も知らず、子供の成長発達にも興味が無い状態でした。それに同僚の准看護師も、薬を処方するのにあたり子供の体重を測ることをしていませんでした。



そこで、乳幼児健診の大切さや体重・身長測定の大切さを指導し実践していきました。当初は、業務の増加と手間のため消極的な部分がありましたが、徐々に子供の体重が栄養状態や乳幼児の死亡に関連していることを実感し、子供たちの体重のグラフのページが点か

ら線、そしてグラフになっていくにしたがって一緒に行ってくれるようになっていきました。このように文章にすると短い印象になりますが、



実際は言葉の問題・習慣の問題・基礎教育の問題・差別、地位の問題など様々な問題があり、同僚が健診を行なえるようになるまで長い時間が必要でした。

またそのような小さな診療所では、医療の限界を感じる事も少なくありませんでした。いかにして病気にならないようにするか、病気の早期の徴候を見逃さないかということが重要になってきます。特に子供においては、脱水症状のサインや脱水にならないためのケア方法などを母親中心に指導していく必要がありました。しかし母親の大半は、字もかけない・読めない人達です。そのなかで、どうやって理解してもらおうか・覚えてもらおうが非常に苦労した点であり、あきらめそうに何度もなりました。でも、何度も繰り返す事によって、少



しずつ少しずつ理解してもらいました。時には、何時間も山道を歩いて家へ訪問指導を行ないに行くこともありました。

私にとって、このグアテマラ生活の2年間は、日本では決して経験することが出来ない貴重な時間でした。同時に、この平和な豊かな国で暮らしていると忘れてしまう『小さな幸せ』と『大切なもの』を再認識させてくれるいい機会でもありました。

最後に、こうして帰国後すぐに復職することが出来たのも、青年海外協力隊現職参加制度を利用する事が出来たからです。現職参加にあたり、ご協力して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

脳梗塞の アルテプラールゼ静注療法

治療の最前線
第四回



齋藤 均先生
(脳神経外科)

脳梗塞は脳卒中の約70%を占めており、とくに秋田県では高齢化の進行が顕著なため、人口減少にもかかわらず患者数が今後ますます増加していくことが予想されています。脳梗塞の急性期死亡率は5%と高くはないので

すが、後遺症で苦しんだり、再発を繰り返したりで、介助者なしでは生活できない状態になるなど、大きな社会問題になっています。

脳梗塞は脳の血管が血栓(血液の塊)によって閉塞して、脳の組織が死んでしまう病気です。血液の塊ができないようにする、血液をサラサラにする、血管の動脈硬化を防止するなどの予防策が最も重要ですが、運悪く脳梗塞になってしまったら、どのような治療があるのか、最新の治療についてお話しします。

脳梗塞発症から3時間以内という条件が付きますが、早期に来院して診断されれば、rt-PA(アルテプラールゼ)静注療法が受けられる可能性があります。

手足の麻痺、しびれ、ろれつが回らない、めまい、意識障害などの症状が出現してから3時間以内にこの治療を開始することにより、滞った脳の血の流れを良くする、理にかなった治療です。従来の治療と比較して、ほとんど障害のない状態にまで回復した人が26%から39%に増加し、有効性が確かめられています。

しかしながらアルテプラールゼは、効果とは裏腹に、出血を起こす重い副作用も報告されており、最悪の場合は死に至ることもあります。したがって、この治療を行うに当たっては、副作用を起こす可能性のある既往歴(胃潰瘍、血尿、外傷、手術など)がある場合、コントロールできない高血圧、血糖異常、血小板減少、重篤な肝障害、急性膵炎などの疾患がある場合には禁忌とされています。

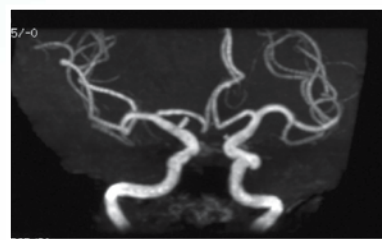
アルテプラールゼ静注療法は脳梗塞患者さんにとっては大きな福音ですが、恩恵を受けられる患者さんは脳梗塞のわずか5%に過ぎません。発症から3時間以内に治療を開始するためには、2時間以内に来院する必要がある、「当たったかな」と思ったら一刻も早く病院を受診することが肝要です。

アルテプラールゼ 著効例



当院で経験したアルテプラールゼ治療の著効例を提示します。

71歳の女性で、右手足の脱力と言語障害で来院。左が初診時の脳血管像ですが、矢印のところで太い血管が閉塞しています。右は治療翌日の脳血管像で、途絶していた血流が再開し、症状も完全に回復しました。



●● 脳梗塞の再発予防 ●●

脳梗塞は再発の恐れがある病気です。再発を予防するには血液をサラサラにして血栓を作らないことが重要です。そのための薬として「抗血小板薬」や「抗凝固薬」が用いられます。

抗凝固薬にワルファリンカリウムという薬があります。この薬は、医薬品や飲食物との相互作用が多い薬です。特に納豆などのビタミンKを多く含む食品を摂取すると、作用が弱くなってしまいますので注意が必要です。また、血栓の形成を防ぐとともに副作用(出血しやすくなるなど)を起こさないためには、血液の固まりぐあい調べる「PT-INR」という検査を定期的に受け、薬の量を調節する必要があります。

退職にあたって

平成3年から17年間、市立病院にお世話になりました。病院長をはじめ多くのスタッフのご指導に厚く感謝いたします。

赴任した当時の薬局の前には、薬を待つ患者さんであふれ、私どもは、ただ調剤に追われる毎日でした。しかし今、調剤室に立つてみますと、かつての待合室は、受付コーナーや医療連携室で占められ、薬を待つためのスペースはごくわずかとなっています。院外処方箋の発行は病院薬剤師の業務内容を大きく変え、調剤の対象は外来患者さんから入院患者さんへシフトしました。そして処方・オーダリングシステムの導入もあり従来と比較し、より安全で個々の患者さんに対して適切な薬を調剤し、服薬説明もできるようになりました。

薬局でさらに患者さんが安心して薬の投与が受けられるよう、努力を重ねております。長い間ありがとうございました。



山先 滋 薬剤部長

「市民のための呼吸教室」のお知らせ

『呼吸器疾患と在宅酸素療法について』をテーマに医師や臨床検査技師などがお話しします。ご自宅で酸素を吸入しながら生活する『在宅酸素療法』についての講話もあります。お気軽にお越しください。

日時 3月15日(土曜日)
午前10時から11時30分

場所 市立秋田総合病院
1階外来ホール

参加費 無料

事前申込 不要(当日、会場にお越し下さい)

問い合わせ 市立秋田総合病院
リハビリテーション科



職種紹介 Q&A

Q 管理栄養士とは…

A 病院勤務の管理栄養士は病気の治療・回復・合併症の予防を目指して、患者さんの栄養管理や栄養指導を行うことを業務としています。

治療は投薬・手術や様々な処置のみで完了するものではありません。とりわけ『食』は生命維持の根幹を成すものです。栄養管理の欠落した治療は考えられません。そこで、私たち管理栄養士は全ての患者さんの入院時の栄養状態を評価し治療効果向上へのサポートを行い患者さんの状況に即した適切な食事提供を行っています。

外来患者さんには栄養・食事相談を通じ食生活の変容を促しながら治療の効果をあげるお手伝いをしています。



市立秋田総合病院

理念

● 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けることを目指します。

基本方針

- 患者さんに信頼されるあたたかい、心の通い合う医療を行います。
- 多様化する医療への要望に応えるために、常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院としての役割を果たします。
- 患者さんの権利や意思を尊重し、十分な診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努めます。
- 良質な医療を提供していくために、健全な病院経営を目指し、業務の改善と効率的な運営に努めます。

編集・発行/市立秋田総合病院 平成20年2月29日発行

〒010-0933 秋田県秋田市川元松丘町4番30号 Tel(代表):018-823-4171 Fax:018-866-7026

E-mail: ro-homn@city.akita.akita.jp <http://www.city.akita.akita.jp/city/ho/newho/default.htm>